

沖縄語首里方言の敬語付き動詞

西岡, 敏

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

27

(開始ページ / Start Page)

97

(終了ページ / End Page)

137

(発行年 / Year)

2003-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012856>

沖縄語首里方言の敬語付き動詞

西 岡 敏

1. はじめに

沖縄語首里方言の敬語における三つの柱は、共通語（日本語）と同様、「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」である。いずれも用言（動詞あるいは形容詞）に敬意あるいは丁寧さを表わす専用の要素を付与することで作られる。ただし、謙譲語について、共通語（日本語）ではさらに謙譲語Aと謙譲語Bに分かれるけれども（大石初太郎1986[1975]:99、菊地康人1994:209）、沖縄語首里方言では謙譲語Aに当たるもののみあって、謙譲語Bに当たるものは存在しない（→4. 3.）。

本稿では、前半で沖縄語首里方言における丁寧語、尊敬語、謙譲語を概略する。そして、後半でその敬語付きの動詞の活用形を語彙資料として提示する。沖縄語首里方言の表記については、音韻的に配慮された西岡敏・仲原穰2000のカタカナ表記を使用し、アクセントの上がり目（高）を「、下がり目（低）を」で表記することにする（西岡2002cに同じ）。沖縄語首里方言の話者として、伊狩典子氏（1931年生まれ・女性）にたいへんお世話になった。本稿の前半は、2002年度（平成14年度）3月に東京大学大学院人文社会系研究科に提出した博士論文（西岡2002a）、および、その概略を紹介した2002年度（第25回）沖縄言語研究センター・研究発表会（2002年10月13日）の発表原稿が元となっている。

2. 丁寧語

2. 1. 沖縄語首里方言・丁寧語の先行研究

服部四郎1955:345、鈴木重幸1961:81-82、国立国語研究所（『沖縄語辞典』）2001[1963]:77-78、Loveless2001[1963]:159、船津好明1988:11、津波古敏子1997[1992]:381-382、宮良信詳2000:60などで、文末が「～ビーン」となる沖縄語首里方言の丁寧語が紹介されている（西岡2002a:35-36）。

2. 2. 丁寧語の表現：普通体（常体）と丁寧体

共通語（日本語）の文について、文末が普通体（常体）であるものは「ダ・デアル体」、文末が丁寧体であるものは「デス・マス体」と呼ばれる。そのように実際に出てくる具体的な形式を用いて呼ぶことになれば、沖縄語首里方言では、普通体を「ヤン体」、丁寧体を「ビーン体」と呼ぶことができる。沖縄語の「ビーン」が日本古語の「はべり」

【侍り】と対応することは、国立国語研究所2000[1963]:77、外間守善2000[1981]:28-30、津波古1997[1992]:381-382をはじめ、多くの研究者が指摘するところである。

(例1) ヤン体 「クレ」ー 「スムチ 「ヤ」ン、 これは本だ。
 ビーン体 「クレ」ー 「スムチ 「ヤイ」ビーン、 これは本です。

沖縄語首里方言の丁寧語の表現と、共通語（日本語）のそれ（です・ます）とは、ほぼ同じ機能を果たしていると考えられる。すなわち、次のような機能である。

①話題とは無関係・聞き手に関係

丁寧語は、聞き手に対する丁寧さを表わすもので、話題が何であるかについては無関係である。

(例2) 「シン」シーヤ 「ブンガクハカセ 「ヤイ」ビーン。
 先生は文学博士です。

(例3) 「ア」ヌ 「スムチェー 「タルーヌ 「ム」ン 「ヤイ」ビーン。
 あの本は太郎のものです。

(例2) で文末が「ヤン」ではなく「ヤイビーン」であるのは、文中で話題になっているものが社会的に地位が高いとされる「先生＝文学博士」であるからではない。その証拠に (例3) のごとく話題になっているものが「太郎の本」であっても「ヤイビーン」が使われている。すなわち、「ヤイビーン」の使用が文中に出てくる話題によって左右されていないことを示している。

②尊敬語や謙譲語の後に続く。

以下の (例4) では「ビーン」が尊敬語「ミシェー (ン)」(お～になる) の後に、(例5) では謙譲語「ウンヌキ (ユン)」(申し上げる) の後に続いている。「～ビーン」という要素が、尊敬語、謙譲語以外の敬語の範疇であること（それらとは別の丁寧語という敬語の範疇であること）を示している。

(例4) 「シン」シーガ 「スムチ 「ユミミシェービー」ン。
 先生がをお読みにになります。(尊敬語＋丁寧語)

(例5)「ワンネー 「シン」 シーンカ」イ 「アン 「ウン」 ヌキヤビーン」
私は先生にそう申し上げます。(謙譲語+丁寧語)

3. 尊敬語

3. 1. 沖縄語首里方言・尊敬語の先行研究

服部1955:344、国立国語研究所2001[1963]:80、Loveless2001[1963]:159-160、船津1988:124-129、津波古1997[1992]:382、宮良2000:67-74などがある(西岡2002a:54-55)。

3. 2. 尊敬語の表現

沖縄語首里方言も、共通語(日本語)と同じく、尊敬語は「話手が主語を高める表現」(菊地1994:93)である。共通語では「お～になる」が尊敬語をつくる代表的な形であるが、沖縄語首里方言では「～ミシェーン」が尊敬語を表わす要素として第一に挙げられる。

①話題となる人物への敬語

「ミシェーン」の使用は、丁寧語のように聞き手ではなく、話題となる人物に関わる。(例6)(例7)のように、主語が「シンシー」(先生)である場合、双方とも動詞に「ミシェー(ン)」という敬語の要素が付き、その主語を高めている。「ミシェーン」には、「ヤン体」(普通体[常体])と「ビーン体」(丁寧体)の双方がある。ということは、「ミシェーン」が、丁寧語とは異なった敬語の範疇に属していることを示している。

(例6)「シン」シーガ 「スムチ 「ユミミシェーン」(ヤン体)
先生が本をお読みになる。

(例7)「シン」シーガ 「スムチ 「ユミミシェービー」ン」(ビーン体)
先生が本をお読みになります。

話題となる人物は、聞き手である「二人称」、または第三者である「三人称」の双方の場合がある。

(例8)「ウンジュガ 「スムチ 「ユミミシェービー「ミ? (二人称を高める)
あなたが本をお読みになるのですか。

(例9)「タルーヌ 「シン」シーガ 「スムチ 「ユミミシェービー「ミ? (三人称を高める)
る)

太郎の先生が本をお読みになるのですか。

②「主語」を高めるということ

文中に尊敬の対象となる話題の人物があっても、主語でなければ尊敬語によって高めることができない。(例10)では、尊敬の対象となる「シンシー」(先生)が文中には出てきているけれども、それは主語ではない。主語は「イー」(絵)であり、これを尊敬語「ミソーチャン」(「ミシェーン」の過去形)によって高めることはできない。

(例10) ×「イーヌ 「シン」シーヌ 「チブルンカ」イ 「ウティミソーチャ」ン。
×絵が先生の頭にお落ちになった。

(例11)(例12)のように、主語が「ヌスドゥ」(泥棒)や「ワン」(私)など、高められるべきでない語のときも、<適用>の段階でおかしな文と判断される。

(例11) ×「ア」ヌ 「ヌスドゥヌ 「フィンギミソーチャ」ン。
×あの泥棒がお逃げになった。

(例12) ×「ワーガ」 「メン」ソーチャン。
×私がいらっしゃった。

上記の例は、<適用>のルールは破っているけれども、《主語を上位者として高める》という機能は保っている。菊地1994:111は、「先輩がせっかくいらっしゃった(おいでになった)んだ。酒ぐらいふるまえ。」という共通語(日本語)の自敬表現の文例を挙げ、冗談としては使用可能であることを述べている。沖縄語でも次のような自敬表現(「ドゥーウヤメー」を用いた例(北谷方言)を挙げることができる。

(例13) 沖縄芝居『丘の一本松』(作:大宜見小太郎)

(息子) ワーガ イカンデー ターガ イチュガ?

私が行かないで誰が行くのか?

(父) ワーガ メンシェーン。

私がいらっしゃる。

③沖縄語首里方言の身内敬語性

沖縄語首里方言では、身内の人に対しても敬語を使ってかまわない。以下の(例14)は沖縄語による新作のわらべうたの例である。

(例14) 新作童歌『ちんぬくじゅうしい』(作詞：朝比呂志)

すうが 畑から 戻みそうち

スーガ ハルカラ ムドゥミソーチ

お父さんが畑からお戻りになって、(共通語[日本語]では不可)

(例14) では身内の「父」に対して尊敬語「～ミソーチ」(「～ミシェーン」のテ形)が用いられている。共通語(日本語)の発想では、<適用>の段階で「身内を高めている」ということで不可とされる言い方である。

④「めしあり」【召し有り】と「めしおわる」【召し御座る】：補充法(suppletion)

共通語(日本語)の「お～になる」の意味にあたるものが、沖縄語首里方言では「ミシェーン」(【召し有り】と対応)という形で、「お～になった」の意味にあたるものが「ミソーチャン」(【召し御座した】と対応)という形である。「ミシェーン」と「ミソーチャン」は互いに尊敬語の活用体系を補う補充法(suppletion)の関係にある。

祭祀歌謡集『おもろさうし』(1531～1623年)では、尊敬の補助動詞「おわる」(「御座す」のラ行四段動詞化形)が盛んに用いられている。しかし、琉歌・組踊の時代では、「おわる」の敬度が漸減している(仲宗根政善1987:231,261)。そのため、「おわる」の前に「召す」を付けて「召しおわる」とし、敬度の補強が図られたと考えられる。

3. 3. 尊敬語の一般形・特定形

①尊敬語の一般形

一般形とは、「読む」→「お読みになる」など、動詞から規則的につくる敬語であり、これに対し、特定形とは、「言う」→「おっしゃる」など、特定の形の敬語である(菊地1994:94)。沖縄語首里方言では、今まで例示してきた尊敬形式の「ミシェーン」が尊敬語の一般形をつくる代表的な形である。

②尊敬語の特定形

先述したように、特定形とは、「言う」→「おっしゃる」、「食べる」→「召し上がる」など、動詞から規則的に作らず、別個独自にそなわっている尊敬語の形である。沖縄語首里方言における尊敬語の特定形には次のようなものがある。

尊敬語の特定形

「ウサ」ガユン(召し上がる)

「カムン(食べる)

「メン」シェーン（いらっしゃる）	「ヌムン（飲む） 「イチュ」ン（行く） 「チューン（来る） 「ウウ」ン（居る）
「メーン」、「イメーン（おいでになる）」	同上
「ミシェーン（おいでになる）」	同上
「ウタビミシェー」ン（くださる）	「クィユ」ン（くれる） 「トゥラスン（くれる） 「ンジュン（見る） 「チチュ」ン（聞く） 「シヌ」ン（死ぬ）
「ウミ」カキユン（ご覧になる）	同上
「ウン」ヌカユン（お聞きになる）	同上
「マー」スン（亡くなる）	
「ケーマース」ン（亡くなる）	同上
「ミーウトゥイ」「ス」ン（お隠れになる）	同上
「ッワーチミチシェーン （お歩きになる・準特定形→4. 4. ③）	「アッチュン（歩く）
「ッウェシミシェーン （お休みになる・準特定形→4. 4. ③）	「ニン」ジュン（寝る） 「ユクユン（休む） 「アン（有る）
「サー」ユン（お有りになる）	

4. 謙譲語

4. 1. 沖縄語首里方言・謙譲語の先行研究

船津1988:127、宮良2000:74、西岡・仲原2000:117-119などがあるがいずれも不十分で、沖縄語首里方言における敬語の「三本柱」（丁寧語・尊敬語・謙譲語）のうちでも特に研究が進んでいなかった（西岡2002a:91-92）。

4. 2. 謙譲語の表現

4. 3で後述するが、沖縄語首里方言には、共通語（日本語）にある「謙譲語B」が無く、謙譲語Aのみがある。「謙譲語A」とは「話手が補語を高め、主語を低める（補語よりも低く位置づける）表現」（菊地1994:210）と定義されている。「謙譲語A」と「謙譲語B」を機能的に区別する必要がないので、沖縄語首里方言では、共通語（日本語）の「謙譲語A」にあたるものをただ単に「謙譲語」と呼ぶことにする。

①話題となる人物への敬語

謙譲語においては、以下の（例15）（例16）のように、「ヤン体」（普通体）、「ビーン

体」(丁寧体)の双方が可能であり、丁寧語とは別の敬語の範疇を形成している。このことは、謙譲語の使用が聞き手ではなく(聞き手に関係するのは丁寧語のほう)、話題となる人物にコントロールされていることを示している。また、話題となる人物は、聞き手である「二人称」(例16)、または第三者である「三人称」(例15)の双方の場合がある。

(例15)「ワンネー 「シン」 シーンカ」イ 「アン 「ウン」 ヌキタ」ン。(ヤン体)
私は先生に(三人称)そう申し上げた。

(例16)「ワンネー 「ウンジュンカ」イ 「アン 「ウン」 ヌキヤビタ」ン。(ビーン体)
私はあなたに(二人称)そう申し上げました。

②身内敬語と二方面敬語

沖縄語首里方言は身内敬語なので、身内の年長者を主語した謙譲語を使う場合に、次の(例17)のごとく二方面敬語(菊地1994:217)になる。(例17)では、「アヤー」(母)の「シンシー」(先生)に対する行為を謙譲語により「シンシー」(先生)を高めつつ、同時に身内の年長者である「アヤー」(母)を尊敬語により高めている。

(例17)「アヤーガ 「シン」 シーンカ」イ 「ハナ 「ウサ」ギ ミソーチャン.
(謙譲語+尊敬語)
母が先生に花をさしあげになられた。(共通語[日本語]では不可)

4. 3. 沖縄語首里方言に共通語(日本語)の謙譲語Bにあたるものはない

共通語(日本語)においては、謙譲語と呼ばれるものに謙譲語Aと謙譲語Bの二種類があることが言われている(大石1986[1975]:99、菊地1994:209)。共通語(日本語)での謙譲語Aとは「話題の人物に対する敬語」(菊地1994:209)であり、謙譲語Bとは「聞き手に対する敬語」(菊地1994:209)である。謙譲語Aは共通語(日本語)にも沖縄語にもある。次の(例18)(例19)は補語の「皆さん」および「グスーヨー」に対する敬語、すなわち、謙譲語Aの用例である。

(例18) 私が皆さんをお招きしましょう／ご招待しましょう。(菊地1994:209)

(例19)「ワーガ 「グスーヨー」 「ウンチケー」 「サビ」ラ、

私が皆さんをご招待しましょう。

共通語で言う謙譲語Bは、たとえば「いたす」を用いた次のようなものである。

(例20) 私が出席いたしました。(菊地1994:221)

「いたす」「申す」「まいる」などが共通語（日本語）の謙譲語Bに用いられる語であるが、沖縄語首里方言でこれに相当する動詞はなく、聞き手への丁寧さを表わす丁寧語で代用する（すなわち、ビーン体を用いる）。

(例21) 「ワーガ 「ッンジヤビタ」ン（「シュッ」セキ 「サビ」タン）。
私が出席しました。

4. 4. 謙譲語の一般形・特定形・準特定形

①謙譲語の一般形

沖縄語首里方言において、謙譲語の一般形を作る形式には、次の1～4に掲げたいくつかの方法がある。共通語（日本語）の謙譲語一般形において、「お待ちする」の「待ち」、「お話しする」の「話し」は連用形である。本稿でも沖縄語首里方言のそれに当たる形を連用形と呼ぶことにする。

1. ウ-連用形（グ-漢語名詞）＋「ス」ン（する系）
2. ウ-連用形（グ-漢語名詞）＋「ウウガムン（拌む系）
3. ウ-連用形（グ-漢語名詞）＋「ウン」ヌキユン（申し上げる系）
4. テ形 ＋「ウサ」ギユン（差し上げる系）

1の「ウ／グ～スン」（する系）と2の「ウ／グ～ウウガムン」（拌む系）は、共通語（日本語）の「お／ご～する」にほぼ相当する。1と2の両者の語形は異なるけれども、機能的には同じものとして扱うことができる。ただし、敬度は1（する系）より2（拌む系）が高い。

(例22) 「ワッターヤ 「シン」シー 「ウトウイムチ 「サ」ン。（する系）
私達は先生をおもてなした。

(例23) 「ワッターヤ 「シン」シー 「ウトウイムチ 「ウウガダン」。（拌む系）

私達は先生をおもてなしした。

3の「ウ／グーウンヌキユン」(申し上げる系)は、共通語(日本語)の「お／ご～申し上げる」とは異なり、前部要素「ウ／グー」の部分が「言う」対象とならなければ使えない。すなわち、そこが発話に関わる場合にしか使用できない。例えば、(例26)は「グエーサチ」(ご挨拶)が「言う」対象となるので使用できるが、(例27)は「ウンチケー」(ご招待)が「言う」対象とならないため不可となる。

(例24) ○今日は皆様にご挨拶(を)申し上げます。

(例25) ○私達は先生をご招待申し上げた。

(例26) ○「チューヤ」「グスーヨーンカ」イ「グエーサチ」「ウン」ヌキヤビーン。
今日は皆様にご挨拶(を)申し上げます。

(例27) ×「ワッターヤ」「シン」シー「ウンチケー」「ウン」ヌキヤビタ」ン。
私達は先生をご招待申し上げました(共通語[日本語]では可)。

4の「テ形＋ウサギユン」(差し上げる系)は、共通語(日本語)の「～してさしあげる」に相当する形である。沖縄語首里方言でも多くの動詞でつくることが可能で、聞き取り調査などでも比較的に出てきやすい謙譲語である。しかしながら、共通語(日本語)の「～してさしあげる」と同様、「恩着せがましい響き」(菊地1994:275)を伴うことがある。

②謙譲語の特定形

共通語(日本語)の「言う」→「申し上げる」のように、動詞から規則的につくることができない謙譲語の特定形には、次のようなものがある。

謙譲語の特定形

「ウサ」ギユン(さしあげる)	「クィユ」ン(あげる)
	「トゥラスン(やる)
「ユシ」リユン(うかがう)	「イチュ」ン(行く)
	「チューン(来る)
「ウッガムン(拝見する・お目にかかる)	「ンジュン(見る)

	「イチャ」ユン（会う）
「ウン」ヌキユン（申し上げる）	「ッユ」ン（言う）
「ウミ」カキユン（お見せする）	「ミシユン（見せる）
「ウンデー」「サリ」ユン（お叱りを受ける）	「ヌラ」ーリユン（叱られる）

③謙譲語の準特定形（前部要素＝特定形、後部要素＝一般形）

謙譲語の中には、前部要素の「ウ／グ」の要素がもはや切り離せなくなって前部要素全体で一つの敬語の名詞を作っているけれども、その一方で後部要素は「スン」または「ウッガムン」という形が付いて一般形の体をなしているものもある。こういったものを西岡2002a:111では「準特定形」と呼んでいる。たとえば、次のような語である（以下の例で後部要素は「スン」に統一する）。

(例28)「ウンチケー」「ス」ン（ご招待する）	「ユブ」ン（[招く]意の呼ぶ）
	「マニ」チュン（[文語]招く）
	「ソー」ユン（同伴する）

(例29)「ウンチェーム」ン「ス」ン（お借りする）「カユ」ン（借りる）

「×ンチケー」「×ンチェームン」という語はない。すなわち、前部要素「ウンチケー」「ウンチェームン」は、もはやひとまとまりの特定形と見なすべきで、「ウ＋ンチケー」「ウ＋ンチェームン」【御＋】というように切り離すことはできない。

(例30)「ッウィーチェー」「ス」ン（お会いする）「イチャ」ユン（会う）

前部要素「ッウィーチェー」は「おいきあい【御行き会い】」に対応する語である。これも「ッウィーチェー」でひとまとまりの特定形と見なすべきで、「ウ＋イチェー」【御＋】というように切り離すことはできない。

5. 沖縄語首里方言の敬語付き動詞（一般形）語彙資料

以下、表01-表27（pp.73-101）においては、沖縄語首里方言における敬語付き動詞の活用形を掲げてある。

丁寧語と尊敬語については、無核のアクセントである《「ユムン」》（読む）と有核のアクセントである《「ユブ」ン》（呼ぶ）を活用形の提示に使用した。通常相の形のみ

ならず、継続相の形（継続形）も掲げている（表03、表04、表09、表10、表11、表12、表16、表17、表20、表21、表24、表25）。

動作動詞における過去形には、通常の「過去形」と「経験過去形」（西岡・仲原 2000:82では「シヨッタ形」）がある。たとえば、《「ユムン」》には、通常の過去形《「ユダン」》（読んだ）と、話し手が過去に経験したことを聞き手に伝えるときの過去形（経験過去形）《「ユムタ」ン》（読みよった）との二種類がある。この区別は敬語付き動詞のときにも引き継がれる。前者（通常過去形）に対応する丁寧語の形が《「ユマビタ」ン》（読みました）、尊敬語の形が《「ユミミソーチャン」》（お読みになった）である。後者（経験過去形）に対応する丁寧語の形が《「ユマビータ」ン》（読みよりました）、尊敬語の形が《「ユミミシェータ」ン》（お読みでおられた）である。ただし、継続相と過去時制が結び付く場合は、後者（経験過去形）の使用によって通常の過去の意味を表わすことが一般的である。すなわち、《「ユドーミ」シェータ」ン》（読んでいらっしやった）であって、《×ユドーミソーチャン》ではない。西岡・仲原 2000:70,82、西岡2002a:66-68、西岡2002b:285-288を参照されたい。

謙譲語については、無核のアクセントである《「ハナスン」》（話す）と有核のアクセントである《「シラ」スン》（知らせる）を使用している。ただし、謙譲語の一般形については、連用形ないしは漢語名詞に「ウ／グ」【御】を付けた段階で無核・有核のアクセントの対立が消え、すべて無核のアクセントとなる（西岡2002a:95）。無核の《「ハナスン」》（話す）および有核の《「シラ」スン》（知らせる）は、ともに連用形に「ウ」【御】が付いた段階で無核である。

「ハナスン（話す） → 「ウハナシ（お話し）

「シラ」スン（知らせる） → 「ウシラシ（お知らせ）

これらに「～スン」（する系）、「～ウウガムン」（拝む系）、「～ウンキユン（ウンヌキーン）」（申し上げる系）を付けて表現する謙譲語の一般形は、すべて同じアクセント型を持つことになる。本稿では、《「ウハナシ ス」ン》（お話しする）の活用形と《「ウシラシ ス」ン》（お知らせする）の活用形は、互いで同じ型であることを確認するために双方掲げてある（表13、表14）。しかしながら、紙面の都合上、それ以降は《「ウハナシ～」》のみを代表させて掲げ（表15-表25）、《「ウシラシ～」》は省略した。

「テ形＋ウサギユン（ウサギーン）」（差し上げる系）については、《「シラ」チ＋「ウサ」ギーン》（知らせてさしあげる）のほうのみを掲げている（表26、表27）。

「～シガ」という形には、意味的には《シ（準体助詞）＋ガ（主格の格助詞）》（～するのが、～することが、）の場合と《シ」ガ（逆接の接続助詞）》（～するが、～す

るけれども、) の場合とがあるけれども、双方ともアクセントとしては《～シ」ガ》という型になる(本稿では後者を代表させて掲げてある)。

○引用文献

- 上野善道 2001 「琉球方言アクセント研究の課題」
『復帰25周年記念第3回沖縄研究国際シンポジウム 世界につなぐ
沖縄研究』 復帰25周年記念第3回「沖縄研究国際シンポジウム」
実行委員会・沖縄文化協会：pp.628-637
- 大石初太郎 1986[1975] 『敬語』 ちくま文庫563 筑摩書房
- 菊地康人 1994 『敬語』 角川書店
- 国立国語研究所 2001[1963] 『沖縄語辞典』 財務省印刷局
- 鈴木重幸 1961 「首里方言の動詞のいいきりの形」『国語学』41 国語学会
- 津波古敏子 1997[1992] 「琉球列島の言語(沖縄中南部方言)」
『言語学大辞典セレクション 日本列島の言語』
(亀井孝・河野六郎・千野栄一[編著]) 三省堂：pp.369-388
- 仲宗根政善 1987 『琉球方言の研究』 新泉社
- 西岡敏・仲原穰 2000 『沖縄語の入門 たのしいウチナーグチ』 白水社
- 西岡敏 2002a 「沖縄語首里方言の敬語体系」
東京大学大学院人文社会系研究科博士論文
- 西岡敏 2002b 「沖縄語首里方言の敬語動詞『メンシェーン』の過去形」
『第4回「沖縄研究国際シンポジウム」世界に拓く沖縄研究』
第4回「沖縄研究国際シンポジウム」事務局：pp.280-289
- 西岡敏 2002c 「沖縄語首里方言の終助詞付き用言語彙資料」『琉球の方言』
26号 法政大学沖縄文化研究所：pp.17-33
- 服部四郎 1955 「附. 琉球語」『世界言語概説 下巻』 研究社：pp.328-353
- 船津好明 1988 『伝統文化の真髄 美しい沖縄の方言①』(中松竹雄[監修])
技興社
- 外間守善 2000[1981] 『沖縄の言葉と歴史』 中公文庫1143 中央公論社
- 宮良信詳 2000 『うちなーぐち講座 首里ことばのしくみ』 沖縄タイムス社
- O.Loveless 2001[1963] 『オーウェン・ラブレスの沖縄語』 ニライ社

表01 丁寧形 「ユムン。(読む。)

「ユマビラ」ン。(読みません。)

「ユマビラ。(読みましょう。)

「ユマビラ」ー、(読みますなら、)

「ユマビレ」ー、(読みますれば、)

「ユマビーン。(読みます。)

「ユマビール～(読みます～)

「ユマビール。(読むのです。)

「ユマビーラ。(読むでしょうか。)

「ユマビーシ、(読みますのを、)

「ユマビーシェ」ー、(読みますのは、)

「ユマビーシ」ガ、(読みますが、)

「ユマビーク」トゥ、(読みますので、)

「ユマビータ」ン。(読みよりました。)

「ユマビータ」ル～(読みよりました～)

「ユマビータ」ル。(読みよったのです。)

「ユマビータ」ラ。(読みよったでしょうか。)

「ユマビータ」シ、(読みよりましたのを、)

「ユマビータシェ」ー、(読みよりましたのは、)

「ユマビータシ」ガ、(読みよりましたが、)

「ユマビータク」トゥ、(読みよりましたので、)

「ユマビータ」ガ。(読みよりましたか。)

「ユマビータィ」ー。(読みよりましたか。)

「ユマビタ」ン。(読みました。)

「ユマビタ」ル～(読みました～)

「ユマビタ」ル。(読んだのです。)

「ユマビタ」ラ。(読んだでしょうか。)

「ユマビタ」シ、(読みましたのを、)

「ユマビタシェ」ー、(読みましたのは、)

「ユマビタシ」ガ、(読みましたが、)

「ユマビタク」トゥ、(読みましたので、)

「ユマビタ」ガ。(読みましたか。)

「ユマビティ」ー。(読みましたか。)

表02 丁寧形 「ユブ」ン。(呼ぶ。)

「ユバ」ビラン。(呼びません。)

「ユバ」ビラ。(呼びましょう。)

「ユバ」ビラー。(呼びますなら、)

「ユバ」ビレー。(呼びますれば、)

「ユバ」ビーン。(呼びます。)

「ユバ」ビール～(呼びます～)

「ユバ」ビール。(呼ぶのです。)

「ユバ」ビーラ。(呼ぶのでしょうか。)

「ユバ」ビーシ、(呼びますのを、)

「ユバ」ビーシェ」ー、(呼びますのは、)

「ユバ」ビーシ」ガ、(呼びますが、)

「ユバ」ビーク」トゥ、(呼びますから、)

「ユバ」ビータ」ン。(呼びよりました。)

「ユバ」ビータ」ル～。(呼びよりました～)

「ユバ」ビータ」ル。(呼びよったのです。)

「ユバ」ビータ」ラ。(呼びよったのでしょうか。)

「ユバ」ビータ」シ、(呼びよりましたのを、)

「ユバ」ビータシェ」ー、(呼びよりましたのは、)

「ユバ」ビータシ」ガ、(呼びよりましたが、)

「ユバ」ビータク」トゥ、(呼びよりましたので、)

「ユバ」ビータ」ガ。(呼びよりましたか。)

「ユバ」ビーティ」ー。(呼びよりましたか。)

「ユバ」ビタ」ン。(呼びました。)

「ユバ」ビタ」ル～。(呼びました～)

「ユバ」ビタ」ル。(呼んだのです。)

「ユバ」ビタ」ラ。(呼んだのでしょうか。)

「ユバ」ビタ」シ、(呼びましたのを、)
「ユバ」ビタシ」ガ、(呼びましたのが、)
「ユバ」ビタシェ」ー、(呼びましたのは、)
「ユバ」ビタシ」ガ、(呼びましたが、)
「ユバ」ビタク」トゥ、(呼びましたので、)
「ユバ」ビタ」ガ。(呼びましたか。)
「ユバ」ビティ」ー。「ユバ」ビティ「ー。(呼びましたか。)*

* 《「ユバ」ビティ「ー。》(呼びましたか。)と末尾の音調が上がることもある。

表03 継続・丁寧形 「ユムン。(読む。)

「ユデーウウイ」ビラン。(読んでいません。)
「ユディウウイ」ビラ。(読んでいましょう。)
「ユドーイビーラ」ー、(読んでいますならば、)
「ユディウウイビーラ」ー、(同上)
「ユドーイビーレ」ー、(読んでいますから、[自分に対して])
「ユディウウイビーレ」ー、(同上)
「ユディウィビレ」ー、(読んでいたのでしたら、[相手に対して])

「ユドーイビーン。(読んでいます。)
「ユドーイビール～(読んでいます～)
「ユドーイビール。(読んでいます。)
「ユドーイビーラ。(読んでいますでしょうか。)
「ユドーイビーシ、(読んでいますのを、)
「ユドーイビーシェ」ー、(読んでいますのは、)
「ユドーイビーシ」ガ、(読んでいますが、)
「ユドーイビーク」トゥ、(読んでいますので、)

「ユドーイビータ」ン。(読んでいました。)
「ユドーイビータ」ル～(読んでいました～)
「ユドーイビータ」ル。(読んでいたのです。)
「ユドーイビータ」ラ。(読んでいたでしょうか。)
「ユドーイビータ」シ、(読んでいましたのを、)
「ユドーイビータシェ」ー、(読んでいましたのは、)

「ユドーイビータシ」ガ、(読んでいましたが、)
「ユドーイビータク」トゥ、(読んでいましたので、)
「ユドーイビータ」ガ。(読んでいましたか。)
「ユドーイビータラ」ー。(読んでいましたら、)
「ユドーイビータレ」ー。(読んでいましたから、)
「ユドーイビーティ」ー。(読んでいましたか。)

表04 継続・丁寧形 「ユブ」ン。(呼ぶ。)

「ユデ」ー「ウウイ」ビラン。(呼んでいません。)
「ユドー」イビーラ」ー、(呼んでいますならば、)
「ユディ」ウウイビーラ」ー、(同上)
「ユディ」ウウイビラ」ー、(呼んでいますならば、)*
「ユドー」イビーレ」ー、(呼んでいますから、)
「ユディ」ウウイビーレ」ー、(同上)
「ユディ」ウウイビレ」ー、(呼んでいますから、)

「ユドー」イビーン。(呼んでいます。)
「ユドー」イビール～(呼んでいます～)
「ユドー」イビール。(呼んでいるのです。)
「ユドー」イビーラ。(呼んでいるでしょうか。)
「ユドー」イビーシ、(呼んでいますのを、)
「ユドー」イビーシェ」ー、(呼んでいますのは、)
「ユドー」イビーシ」ガ、(呼んでいますが、)
「ユドーイビーク」トゥ、(呼んでいますので、)

「ユドー」イビータ」ン。(呼んでいました。)
「ユドー」イビータ」ル～(呼んでいました～)
「ユドー」イビータ」ル。(呼んでいたのです。)
「ユドー」イビータ」ラ。(呼んでいたでしょうか。)
「ユドー」イビータ」シ、(呼んでいましたのを、)
「ユドー」イビータシェ」ー、(呼んでいましたのは、)
「ユドー」イビータシ」ガ、(呼んでいましたが、)
「ユドー」イビータク」トゥ、(呼んでいましたので、)

「ユドー」イビータ」ガ。(呼んでいましたか。)

「ユドー」イビーティ」ー。(呼んでいましたか。)

*《「ユディ」ウウイビーラ」ー》と《「ユディ」ウウイビラ」ー》等の意味上の違いは未調査。

表05 尊敬形 「ユムン。(読む。)

「ユミミソーラ」ン。(お読みにならない。)

「ユミミソーリ。(お読みなさい。)

「ユミミソーレ」ー。(お読みなさいよ。)

「ユミミソーラ」ー、(お読みなさるなら、)

「ユミミソーレ」ー、(お読みなされば、)

「ユミミシェーン。(お読みになる。)

「ユミミシェール～(お読みになる～)

「ユミミシェール。(お読みになるのだ。)

「ユミミシェーラ。(お読みになるだろうか。)

「ユミミシェーシ、(お読みになるのを、)

「ユミミシェーシェ」ー、(お読みになるのは、)

「ユミミシェーシ」ガ、(お読みになるが、)

「ユミミシェーク」トゥ、(お読みになるので、)

「ユミミシェータ」ン。(お読みでおられた。)

「ユミミシェータ」ル～(お読みでおられた～)

「ユミミシェータ」ル。(お読みでおられたよ。)

「ユミミシェータ」ラ。(お読みでおられただろうか。)

「ユミミシェータ」シ、(お読みでおられたのを、)

「ユミミシェータシェ」ー、(お読みでおられたのは、)

「ユミミシェータシ」ガ、(お読みでおられたが、)

「ユミミシェータク」トゥ、(お読みでおられたので、)

「ユミミシェータ」ガ。(お読みでおられたか。)

「ユミミシェーティ」ー。(お読みでおられたか。)

「ユミミソーチャン。(お読みになった。)

「ユミミソーチャル〜（お読みになった〜）
「ユミミソーチャル。（お読みになったのだ。）
「ユミミソーチャラ。（お読みになっただろうか。）
「ユミミソーチャシ、（お読みになったのを、）
「ユミミソーチャシェ」ー、（お読みになったのは、）
「ユミミソーチャシ」ガ、（お読みになったが、）
「ユミミソーチャク」トゥ、（お読みになったので、）
「ユミミソーチャ」ガ。（お読みになったか。）
「ユミミソーチ」ー。（お読みになったか。）

表06 尊敬形 「ユブ」ン。（呼ぶ。）

「ユビ」ミソーラ」ン。（お呼びにならない。）
「ユビ」ミソーリ。（お呼びなさい。）
「ユビ」ミソーレ」ー。（お呼びなさいよ。）
「ユビ」ミソーラ」ー、（お呼びなさるなら、）
「ユビ」ミソーレ」ー、（お呼びなされば、）

「ユビ」ミシェーン。（お呼びになる。）
「ユビ」ミシェール〜（お呼びになる〜）
「ユビ」ミシェール。（お呼びになるのだ。）
「ユビ」ミシェーラ。（お呼びになるだろうか。）
「ユビ」ミシェーシ、（お呼びになるのを、）
「ユビ」ミシェーシェ」ー、（お呼びになるのは、）
「ユビ」ミシェーシ」ガ、（お呼びになるが、）
「ユビ」ミシェーク」トゥ、（お呼びになるので、）

「ユビ」ミシェータ」ン。（お呼びでおられた。）
「ユビ」ミシェータ」ル〜（お呼びでおられた〜）
「ユビ」ミシェータ」ル。（お呼びでおられたよ。）
「ユビ」ミシェータ」ラ。（お呼びでおられただろうか。）
「ユビ」ミシェータ」シ、（お呼びでおられたのを、）
「ユビ」ミシェータシェ」ー、（お呼びでおられたのは、）
「ユビ」ミシェータシ」ガ、（お呼びでおられたが、）

「ユビ」ミシェータク」トゥ、(お呼びでおられたので、)

「ユビ」ミシェータ」ガ。(お呼びでおられたか。)

「ユビ」ミシェーティ」ー。(お呼びでおられたか。)

「ユビ」ミソーチャン。(お呼びになった。)

「ユビ」ミソーチャル～(お呼びになった～)

「ユビ」ミソーチャル。(お呼びになったのだ。)

「ユビ」ミソーチャラ。(お呼びになったのだろうか。)

「ユビ」ミソーチャシ、(お呼びになったのを、)

「ユビ」ミソーチャシェ」ー、(お呼びになったのは、)

「ユビ」ミソーチャシ」ガ、(お呼びになったが、)

「ユビ」ミソーチャク」トゥ、(お呼びになったので、)

「ユビ」ミソーチャガ。(お呼びになったか。)

「ユビ」ミソーチ「ー。(お呼びになったか。)

表07 尊敬・丁寧形 「ユムン。(読む。)

「ユミミシェービラ」ン。(お読みになりません。)

「ユミミシェービ」ラ。(お読みになりましょう。)*

「ユミミシェービラ」ー、(お読みになりますなら、)

「ユミミシェービレ」ー、(お読みになりますれば、)

「ユミミシェービー」ン。(お読みになります。)

「ユミミシェービー」ル～(お読みになります～)

「ユミミシェービー」ル。(お読みになるのです。)

「ユミミシェービー」ラ。(お読みになるでしょうか。)

「ユミミシェービー」シ、(お読みになりますのを、)

「ユミミシェービーシェ」ー、(お読みになりますのは、)

「ユミミシェービーシ」ガ、(お読みになりますが、)

「ユミミシェービーク」トゥ、(お読みになりますので、)

「ユミミシェービータ」ン。(お読みでおられました。)

「ユミミシェービータ」ル～(お読みでおられました～)

「ユミミシェービータ」ル。(お読みでおられたのです。)

「ユミミシェービータ」ラ。(お読みでおられたでしょうか。)
「ユミミシェービータ」シ。(お読みでおられましたのを、)
「ユミミシェービータシェ」ー。(お読みでおられましたのは、)
「ユミミシェービータシ」ガ。(お読みでおられましたが、)
「ユミミシェービータク」トゥ。(お読みでおられましたので、)
「ユミミシェービータ」ガ。(お読みでおられましたか。)
「ユミミシェービーティ」ー。(お読みでおられましたか。)

「ユミミシェービタ」ン。(お読みになりました。)
「ユミミシェービタ」ル〜(お読みになりました〜)
「ユミミシェービタ」ル。(お読みになったのです。)
「ユミミシェービタ」ラ。(お読みになったでしょうか。)
「ユミミシェービタ」シ。(お読みになりましたのを、)
「ユミミシェービタシェ」ー。(お読みになりましたのは、)
「ユミミシェービタシ」ガ。(お読みになりましたが、)
「ユミミシェービタク」トゥ。(お読みになりましたので、)
「ユミミシェービタ」ガ。(お読みになりましたか。)
「ユミミシェービティ」ー。(お読みになりましたか。)

*《「ユミミシェービ」ラ。》など現在形でも末尾の音調が下がっている。

表08 尊敬・丁寧形 「ユビ」ン。(呼ぶ。)

「ユビ」ミシェービラ」ン。(お呼びになりません。)
「ユビ」ミシェービ」ラ。(お呼びになりましょう。)
「ユビ」ミシェービラ」ー。(お呼びになりますなら、)
「ユビ」ミシェービレ」ー。(お呼びになりますれば、)

「ユビ」ミシェービー」ン。(お呼びになります。)
「ユビ」ミシェービー」ル〜(お呼びになります〜)
「ユビ」ミシェービー」ル。(お呼びになるのです。)
「ユビ」ミシェービー」ラ。(お呼びになるでしょうか。)
「ユビ」ミシェービー」シ。(お呼びになりますのを、)
「ユビ」ミシェービーシェ」ー。(お呼びになりますのは、)
「ユビ」ミシェービーシ」ガ。(お呼びになりますが、)

「ユビ」 ミシェービーク」 トゥ、(お呼びになりますので、)

「ユビ」 ミシェービータ」 ン。(お呼びでおられました。)

「ユビ」 ミシェービータ」 ル〜 (お呼びでおられました〜)

「ユビ」 ミシェービータ」 ル。(お呼びでおられたのです。)

「ユビ」 ミシェービータ」 ラ。(お呼びでおられたでしょうか。)

「ユビ」 ミシェービータ」 シ、(お呼びでおられましたのを、)

「ユビ」 ミシェービータシェ」 ー、(お呼びでおられましたのは、)

「ユビ」 ミシェービータシ」 ガ、(お呼びでおられましたが、)

「ユビ」 ミシェービータク」 トゥ、(お呼びでおられましたので、)

「ユビ」 ミシェービータ」 ガ。(お呼びでおられましたか。)

「ユビ」 ミシェービティ」 ー。(お呼びでおられましたか。)

「ユビ」 ミシェービタ」 ン。(お呼びになりました。)

「ユビ」 ミシェービタ」 ル〜 (お呼びになりました〜)

「ユビ」 ミシェービタ」 ル。(お呼びになったのです。)

「ユビ」 ミシェービタ」 ラ。(お呼びになったでしょうか。)

「ユビ」 ミシェービタ」 シ、(お呼びになりましたのを、)

「ユビ」 ミシェービタシェ」 ー、(お呼びになりましたのは、)

「ユビ」 ミシェービタシ」 ガ、(お呼びになりましたが、)

「ユビ」 ミシェービタク」 トゥ、(お呼びになりましたので、)

「ユビ」 ミシェービタ」 ガ。(お呼びになりましたか。)

「ユビ」 ミシェービティ」 ー。(お呼びになりましたか。)

表09 継続・尊敬形 「ユムン。(読む。)

「ユデー「メン」ソーラン。(読んでいらっしやらない。)

「ユドーミ」ソーリ。(読んでいらっしやい。)

「ユドー「チミ」ソーリ。(読んでおいていらっしやい。)

「ユドーミ」ソーレー。(読んでいらっしやいよ。)

「ユドー「チミ」ソーレー。(読んでおいていらっしやいよ。)

「ユドーミ」シェーラ」 ー、(読んでいらっしやるなら、)*

「ユドーミ」シェーレ」 ー、(読んでいらっしやれば、)

「ユドーミ」シェーン。(読んでいらっしゃる。)
「ユドーミ」シェール～(読んでいらっしゃる～)
「ユドーミ」シェール。(読んでいらっしゃるのだ。)
「ユドーミ」シェーラ。(読んでいらっしゃるだろうか。)
「ユドーミ」シェーシ、(読んでいらっしゃるのを、)
「ユドーミ」シェーシェ」ー、(読んでいらっしゃるのは、)
「ユドーミ」シェーシ」ガ、(読んでいらっしゃるが、)
「ユドーミ」シェーク」トゥ、(読んでいらっしゃるので、)

「ユドーミ」シェータ」ン。(読んでいらっしゃられた。)
「ユドーミ」シェータ」ル～(読んでいらっしゃられた～)
「ユドーミ」シェータ」ル。(読んでいらっしゃられたよ。)
「ユドーミ」シェータ」ラ。(読んでいらっしゃられただろうか。)
「ユドーミ」シェータ」シ、(読んでいらっしゃられたのを、)
「ユドーミ」シェータシェ」ー、(読んでいらっしゃられたのは、)
「ユドーミ」シェータシ」ガ、(読んでいらっしゃられたが、)
「ユドーミ」シェータク」トゥ、(読んでいらっしゃられたので、)
「ユドーミ」シェータ」ガ。(読んでいらっしゃられたか。)
「ユドーミ」シェーティ」ー。(読んでいらっしゃられたか。)

*《「ユドー「ミ」シェーラ」ー》のようにすべてにおいて《ミ》の前のところで高く音調を戻す言い方もある。

表10 継続・尊敬形 「ユブ」ン。(呼ぶ。)

「ユデ」ー「メン」ソーラン。(呼んでいらっしゃらない。)
「ユド」ー「チミ」ソーリ。(呼んでおいていらっしゃい。)
「ユド」ー「チミ」ソーレー。(呼んでおいていらっしゃいよ。)
「ユドー」ミ」シェーラ」ー、(呼んでいらっしゃるなら、)*
「ユドー」ミ」シェーレ」ー、(呼んでいらっしゃれば、)

「ユドー」ミ」シェーン。(呼んでいらっしゃる。)
「ユドー」ミ」シェール～(呼んでいらっしゃる～)
「ユドー」ミ」シェール。(呼んでいらっしゃるのだ。)
「ユドー」ミ」シェーラ。(呼んでいらっしゃるだろうか。)

「ユドー」ミ」シェーシ、(呼んでいらっしゃるのを、)
「ユドー」ミ」シェーシェ」ー、(呼んでいらっしゃるのは、)
「ユドー」ミ」シェーシ」ガ、(呼んでいらっしゃるが、)
「ユドー」ミ」シェーク」トゥ、(呼んでいらっしゃるので、)

「ユドー」ミ」シェータ」ン。(呼んでいらっしゃられた。)**
「ユドー」ミ」シェータ」ル～(呼んでいらっしゃられた～)
「ユドー」ミ」シェータ」ル。(呼んでいらっしゃられたよ。)
「ユドー」ミ」シェータ」ラ。(呼んでいらっしゃられただろうか。)
「ユドー」ミ」シェータ」シ、(呼んでいらっしゃられたのを、)
「ユドー」ミ」シェータシェ」ー、(呼んでいらっしゃられたのは、)
「ユドー」ミ」シェータシ」ガ、(呼んでいらっしゃられたが、)
「ユドー」ミ」シェータク」トゥ、(呼んでいらっしゃられたので、)
「ユドー」ミ」シェータ」ガ。(呼んでいらっしゃられたか。)
「ユドー」ミ」シェーティ」ー。(呼んでいらっしゃられたか。)

*すべてにおいて《「ユドー」ミ～》と《「ユド」ーミ～》、両方が可である。

**《「ユドー」ミ」シェータ」ン》などの《ミ》のあとの下がりをはっきりしたものではないけれども、こういった例は「2度(以上)に及ぶ下降」(上野善道2001:633)のうちの「3度に及ぶ下降」ということになる。他の動詞(有核アクセント)でも、《「シラ」チョーミ」シェータ」ン》(知らせていらっしゃった)、《「チテ」ートーミ」シェータ」ン》(伝えていらっしゃった)、《「ハタ」ラチョーミ」シェータ」ン》(働いていらっしゃった)などといった例を挙げることができる。ただし、《ミ》の前のところで、音調を高く戻す言い方もあるので、その場合は《「ハタ」ラチョー「ミ」シェータ」ン》などのように「2度に及ぶ下降」(上野2001:634)でおさまる。

表11 継続・尊敬・丁寧形 「ユムン。(読む。)

「ユデー「メン」シェービラン。(読んでいらっしゃいません。)
「ユドー「チミ」シェービリ。(読んでおいていらっしゃい。)
「ユドー「チミ」シェービレ」ー。(読んでおいていらっしゃいよ。)
「ユドーミ」シェービーラ」ー、(読んでいらっしゃいますなら、)*
「ユドーミ」シェービーレ」ー、(読んでいらっしゃいますれば、)

「ユドーミ」シェービー」ン。(読んでいらっしゃいます。)
「ユドーミ」シェービー」ル。(読んでいらっしゃいます。～)
「ユドーミ」シェービー」ル。(読んでいらっしゃるのです。)
「ユドーミ」シェービー」ラ。(読んでいらっしゃるのでしょうか。)
「ユドーミ」シェービー」シ、(読んでいらっしゃいますのを、)
「ユドーミ」シェービーシェ」ー、(読んでいらっしゃいますのは、)
「ユドーミ」シェービーシ」ガ、(読んでいらっしゃいますが、)
「ユドーミ」シェービーク」トゥ、(読んでいらっしゃいますので、)

「ユドーミ」シェービータ」ン。(お読みでおられました。)
「ユドーミ」シェービータ」ル。(お読みでおられました。～)
「ユドーミ」シェービータ」ル。(お読みでおられたのです。)
「ユドーミ」シェービータ」ラ。(お読みでおられたのでしょうか。)
「ユドーミ」シェービータ」シ、(お読みでおられましたのを、)
「ユドーミ」シェービータシェ」ー、(お読みでおられましたのは、)
「ユドーミ」シェービータシ」ガ、(お読みでおられましたが、)
「ユドーミ」シェービータク」トゥ、(お読みでおられましたので、)
「ユドーミ」シェービータ」ガ。(お読みでおられましたか。)
「ユドーミ」シェービティ」ー。(お読みでおられましたか。)

「ユドーミ」シェービタ」ン。(読んでいらっしゃいました。)
「ユドーミ」シェービタ」ル。(読んでいらっしゃいました。～)
「ユドーミ」シェービタ」ル。(読んでいらっしゃったのです。)
「ユドーミ」シェービタ」ラ。(読んでいらっしゃったのでしょうか。)
「ユドーミ」シェービタ」シ、(読んでいらっしゃいましたのを、)
「ユドーミ」シェービタシェ」ー、(読んでいらっしゃいましたのは、)
「ユドーミ」シェービタシ」ガ、(読んでいらっしゃいましたが、)
「ユドーミ」シェービタク」トゥ、(読んでいらっしゃいましたので、)
「ユドーミ」シェービタ」ガ。(読んでいらっしゃいましたか。)
「ユドーミ」シェービティ」ー。(読んでいらっしゃいましたか。)

*《「ユドー「ミ」シェービーラ」ー》と《ミ》の前のところで高さの保ちを補うことがある。

表12 継続・尊敬・丁寧形 「ユブ」ン。(呼ぶ。)

「ユデ」ー「メン」シェービラン。(呼んでいらっしやいません。)
 「ユド」ー「チミ」シェービリ。(呼んでおいていらっしやい。)
 「ユド」ー「チミ」シェービレー。(呼んでおいていらっしやいよ。)
 「ユド」ー「ミ」シェービーラ」ー、(呼んでいらっしやいますなら、)*
 「ユド」ー「ミ」シェービーレ」ー、(呼んでいらっしやいますれば、)

「ユド」ー「ミ」シェービー」ン。(呼んでいらっしやいます。)
 「ユド」ー「ミ」シェービー」ル～(呼んでいらっしやいます～)
 「ユド」ー「ミ」シェービー」ル。(呼んでいらっしやるのです。)
 「ユド」ー「ミ」シェービー」ラ。(呼んでいらっしやるのでしょうか。)
 「ユド」ー「ミ」シェービー」シ、(呼んでいらっしやいますのを、)
 「ユド」ー「ミ」シェービーシェ」ー、(呼んでいらっしやいますのは、)
 「ユド」ー「ミ」シェービーシ」ガ、(呼んでいらっしやいますが、)
 「ユド」ー「ミ」シェービーク」トゥ、(呼んでいらっしやいますので、)

「ユド」ー「ミ」シェービータ」ン。(お呼びでおられました。)
 「ユド」ー「ミ」シェービータ」ル～(お呼びでおられました～)
 「ユド」ー「ミ」シェービータ」ル。(お呼びでおられたのです。)
 「ユド」ー「ミ」シェービータ」ラ。(お呼びでおられたのでしょうか。)
 「ユド」ー「ミ」シェービータ」シ、(お呼びでおられましたのを、)
 「ユド」ー「ミ」シェービータシェ」ー、(お呼びでおられましたのは、)
 「ユド」ー「ミ」シェービータシ」ガ、(お呼びでおられましたが、)
 「ユド」ー「ミ」シェービータク」トゥ、(お呼びでおられましたので、)
 「ユド」ー「ミ」シェービータ」ガ。(お呼びでおられましたか。)
 「ユド」ー「ミ」シェービーティ」ー。(お呼びでおられましたか。)

「ユド」ー「ミ」シェービタ」ン。(呼んでいらっしやいました。)
 「ユド」ー「ミ」シェービタ」ル～(呼んでいらっしやいました～)
 「ユド」ー「ミ」シェービタ」ル。(呼んでいらっしやったのです。)
 「ユド」ー「ミ」シェービタ」ラ。(呼んでいらっしやったのでしょうか。)
 「ユド」ー「ミ」シェービタ」シ、(呼んでいらっしやいましたのを、)
 「ユド」ー「ミ」シェービタシェ」ー、(呼んでいらっしやいましたのは、)
 「ユド」ー「ミ」シェービタシ」ガ、(呼んでいらっしやいましたが、)

「ユド」ー「ミ」シェービタク」トウ、(呼んでいらっしゃいましたので、)

「ユド」ー「ミ」シェービタ」ガ。(呼んでいらっしゃいましたか。)

「ユド」ー「ミ」シェービティ」ー。(呼んでいらっしゃいましたか。)

*すべてにおいて《「ユド」ー》といったん下がったあと、《ミ》の前のところで音調を高く戻す。

表13 謙譲形(する系) 「ハナスン。(話す。)

「ウハナシ (お話し)

「ウハナシ 「サ」ン。(お話ししない。)

「ウハナシ 「サ」ナ。(お話ししよう。)

「ウハナシ 「ッ」シ。(お話ししろ。)

「ウハナシ 「シェ」ー。(お話ししろよ。)

「ウハナシ 「サー、(お話しするなら、)(音調下がらず)

「ウハナシ 「シェ」ー、(お話しすれば、)

「ウハナシ 「ス」ン。(お話しする。)

「ウハナシ 「ス」ル～(お話しする～)

「ウハナシ 「ス」ル。(お話しするのだ。)

「ウハナシ 「ス」ラ。(お話しするだろうか。)

「ウハナシ 「ス」シ、(お話しするのを、)

「ウハナシ 「スシェ」ー、(お話しするのは、)

「ウハナシ 「スシ」ガ、(お話しするが、)

「ウハナシ 「スク」トウ、(お話しするので、)

「ウハナシ 「スタ」ン。(お話ししよった。)

「ウハナシ 「スタ」ル～(お話ししよった～)

「ウハナシ 「スタ」ル。(お話ししよった。)

「ウハナシ 「スタ」ラ。(お話ししよっただろうか。)

「ウハナシ 「スタ」シ、(お話ししよったのを、)

「ウハナシ 「スタ」シェ」ー、(お話ししよったのは、)

「ウハナシ 「スタ」シ」ガ、(お話ししよったが、)

「ウハナシ 「スタ」ク」トウ、(お話ししよったので、)

「ウハナシ 「スタ」 ガ。(お話ししよったか。)

「ウハナシ 「スティ」 ー。(お話ししよったか。)

「ウハナシ 「サ」 ン。(お話しした。)

「ウハナシ 「サ」 ル〜 (お話しした〜)

「ウハナシ 「サ」 ル。(お話ししたのだ。)

「ウハナシ 「サ」 ラ。(お話ししただろうか。)

「ウハナシ 「サ」 シ、(お話ししたのを、)

「ウハナシ 「サシェ」 ー、(お話ししたのは、)

「ウハナシ 「サシ」 ガ、(お話ししたが、)

「ウハナシ 「サク」 トゥ、(お話ししたので、)

「ウハナシ 「サ」 ガ。(お話ししたか。)

「ウハナシ 「ッシ」 ー。(お話ししたか。)

表14 謙譲形 (する系) 「シラ」 スン。(知らせる。)

「ウシラシ。(お知らせ。)

「ウシラシ 「サ」 ン。(お知らせしない。)

「ウシラシ 「サ」 ナ。(お知らせしよう。)

「ウシラシ 「ッ」 シ。(お知らせしろ。)

「ウシラシ 「シェ」 ー。(お知らせしろよ。)

「ウシラシ 「サ」 ー、(お知らせするなら、)

「ウシラシ 「シェ」 ー、(お知らせすれば、)

「ウシラシ 「ス」 ン。(お知らせする。)

「ウシラシ 「ス」 ル〜 (お知らせする〜)

「ウシラシ 「ス」 ル。(お知らせするのだ。)

「ウシラシ 「ス」 ラ。(お知らせするだろうか。)

「ウシラシ 「ス」 シ、(お知らせするのを、)

「ウシラシ 「スシェ」 ー、(お知らせするのは、)

「ウシラシ 「スシ」 ガ、(お知らせするが、)

「ウシラシ 「スク」 トゥ、(お知らせするので、)

「ウシラシ 「スタ」ン。(お知らせしよった。)

「ウシラシ 「スタ」ル～(お知らせしよった～)

「ウシラシ 「スタ」ル。(お知らせしよった。)

「ウシラシ 「スタ」ラ。(お知らせしよっただろうか。)

「ウシラシ 「スタ」シ、(お知らせしよったのを、)

「ウシラシ 「スタ」シェ」ー、(お知らせしよったのは、)

「ウシラシ 「スタ」シ」ガ、(お知らせしよったが、)

「ウシラシ 「スタ」ク」トゥ、(お知らせしよったので、)

「ウシラシ 「スタ」ガ。(お知らせしよったか。)

「ウシラシ 「スティ」ー。(お知らせしよったか。)

「ウシラシ 「サ」ン。(お知らせした。)

「ウシラシ 「サ」ル～(お知らせした～)

「ウシラシ 「サ」ル。(お知らせしたのだ。)

「ウシラシ 「サ」ラ。(お知らせしただろうか。)

「ウシラシ 「サ」シ、(お知らせしたのを、)

「ウシラシ 「サシェ」ー、(お知らせしたのは、)

「ウシラシ 「サシ」ガ、(お知らせしたが、)

「ウシラシ 「サク」トゥ、(お知らせしたので、)

「ウシラシ 「サ」ガ。(お知らせしたか。)

「ウシラシ 「ッシ」ー。(お知らせしたか。)

表15 謙譲・丁寧形(する系) 「ハナスン。(話す。)

「ウハナシ 「サビ」ラン。(お話ししません。)

「ウハナシ 「サビ」ラ。(お話ししましょう。)

「ウハナシ 「サビ」ラー、(お話ししますなら、)

「ウハナシ 「サビ」レー、(お話ししますれば、)

「ウハナシ 「サビ」ーン。(お話しします。)

「ウハナシ 「サビ」ール～(お話しします～)

「ウハナシ 「サビ」ール。(お話しするのです。)

「ウハナシ 「サビ」ーラ。(お話しするのでしょうか。)

「ウハナシ 「サビ」ーシ、(お話ししますのを、)

「ウハナシ 「サビ」ーシェ」ー、(お話ししますのは、)

「ウハナシ 「サビ」ーシ」ガ、(お話ししますが、)

「ウハナシ 「サビ」ーク」トゥ、(お話ししますので、)

「ウハナシ 「サビ」ータ」ン。(お話ししよりました。)

「ウハナシ 「サビ」ータ」ル〜(お話ししよりました〜)

「ウハナシ 「サビ」ータ」ル。(お話ししよったのです。)

「ウハナシ 「サビ」ータ」ラ。(お話ししよったでしょうか。)

「ウハナシ 「サビ」ータ」シ、(お話ししよりましたのを、)

「ウハナシ 「サビ」ータシェ」ー、(お話ししよりましたのは、)

「ウハナシ 「サビ」ータシ」ガ、(お話ししよりましたが、)

「ウハナシ 「サビ」ータク」トゥ、(お話ししよりましたので、)

「ウハナシ 「サビ」ータ」ガ。(お話ししよりましたか。)

「ウハナシ 「サビ」ーティ」ー。(お話ししよりましたか。)

「ウハナシ 「サビ」タン。(お話ししました。)

「ウハナシ 「サビ」タル〜(お話ししました〜)

「ウハナシ 「サビ」タル。(お話ししたのです。)

「ウハナシ 「サビ」タラ。(お話ししたでしょうか。)

「ウハナシ 「サビ」タシ、(お話ししましたのを、)

「ウハナシ 「サビ」タシェ」ー、(お話ししましたのは、)

「ウハナシ 「サビ」タシ」ガ、(お話ししましたが、)

「ウハナシ 「サビ」タク」トゥ、(お話ししましたので、)

「ウハナシ 「サビ」タガ。(お話ししましたか。)

「ウハナシ 「サビ」ティ」ー。(お話ししましたか。)

表16 謙譲・継続形(する系) 「ハナスン。(話す。)

「ウハナシ 「シェ」ー「ウウラ」ン。(お話ししていない。)

「ウハナシ 「ソー」カナ。(お話ししておこう。)

「ウハナシ 「ソー」ラー、(お話ししているなら、)

「ウハナシ 「ソー」レー、(お話ししていれば、)

「ウハナシ 「ソー」ン。(お話ししている。)

「ウハナシ 「ソー」 ル〜 (お話ししている〜)
「ウハナシ 「ソー」 ル。(お話ししているのだ。)
「ウハナシ 「ソー」 ラ。(お話ししているだろうか。)
「ウハナシ 「ソー」 シ、(お話ししているのを、)
「ウハナシ 「ソー」 シェ」 ー、(お話ししているのは、)
「ウハナシ 「ソー」 シ」 ガ、(お話しするが、)
「ウハナシ 「ソー」 ク」 トゥ、(お話しするので、)

「ウハナシ 「ソー」 タン。(お話ししていた。)
「ウハナシ 「ソー」 タル〜 (お話ししていた〜)
「ウハナシ 「ソー」 タル。(お話ししていたのだ。)
「ウハナシ 「ソー」 タラ。(お話ししただろうか。)
「ウハナシ 「ソー」 タシ、(お話ししていたのを、)
「ウハナシ 「ソー」 タシェ」 ー、(お話ししていたのは、)
「ウハナシ 「ソー」 タシ」 ガ、(お話ししていたが、)
「ウハナシ 「ソー」 タク」 トゥ、(お話ししていたので、)
「ウハナシ 「ソー」 タガ。(お話ししていたか。)
「ウハナシ 「ソー」 ティ」 ー。(お話ししていたか。)

表17 謙譲・継続・丁寧形(する系) 「ハナスン。(話す。)

「ウハナシ 「シェ」 ー「ウウイ」 ビラン。(お話ししていません。)
「ウハナシ 「ソー」 チャビラ。(お話ししておきましょう。)
「ウハナシ 「ソー」 イビーラ」 ー、(お話ししていますなら、)
「ウハナシ 「ソー」 イビーレ」 ー、(お話ししていますれば、)

「ウハナシ 「ソー」 イビーン。(お話ししています。)
「ウハナシ 「ソー」 イビール〜 (お話ししています〜)
「ウハナシ 「ソー」 イビール。(お話ししているのです。)
「ウハナシ 「ソー」 イビーラ。(お話ししているでしょうか。)
「ウハナシ 「ソー」 イビーシ、(お話ししていますのを、)
「ウハナシ 「ソー」 イビーシェ」 ー、(お話ししていますのは、)
「ウハナシ 「ソー」 イビーシ」 ガ、(お話ししていますが、)
「ウハナシ 「ソー」 イビーク」 トゥ、(お話ししていますので、)

「ウハナシ 「ソー」 イビータ」ン。(お話ししていました。)

「ウハナシ 「ソー」 イビータ」ル～(お話ししていました～)

「ウハナシ 「ソー」 イビータ」ル。(お話ししていたのです。)

「ウハナシ 「ソー」 イビータ」ラ。(お話ししたでしょうか。)

「ウハナシ 「ソー」 イビータ」シ、(お話ししていましたのを、)

「ウハナシ 「ソー」 イビータシェ」ー、(お話ししていましたのは、)

「ウハナシ 「ソー」 イビータシ」ガ、(お話ししていましたのが、)

「ウハナシ 「ソー」 イビータク」トゥ、(お話ししていましたので、)

「ウハナシ 「ソー」 イビータ」ガ。(お話ししていましたか。)

「ウハナシ 「ソー」 イビーティ」ー。(お話ししていましたか。)

表18 謙讓形(拝む系) 「ハナスン。(話す。)

「ウハナシ 「ウウガマン。(お話ししない。)

「ウハナシ 「ウウガマ。(お話ししよう。)

「ウハナシ 「ウウガムラ」ー、(お話しするなら、) ×「ウウガマー、

「ウハナシ 「ウウガムレ」ー、(お話しすれば、) ○「ウウガメー、

「ウハナシ 「ウウガムン。(お話しする。)

「ウハナシ 「ウウガムル～(お話しする～)

「ウハナシ 「ウウガムル。(お話しするのだ。)

「ウハナシ 「ウウガムシ、(お話しするのを、)

「ウハナシ 「ウウガムシェ」ー、(お話しするのは、)

「ウハナシ 「ウウガムシ」ガ、(お話しするが、)

「ウハナシ 「ウウガムク」トゥ、(お話しするので、)

「ウハナシ 「ウウガムタ」ン。(お話ししよった。)

「ウハナシ 「ウウガムタ」ル～(お話ししよった～)

「ウハナシ 「ウウガムタ」ル。(お話ししよった。)

「ウハナシ 「ウウガムタ」ラ。(お話ししよっただろうか。)

「ウハナシ 「ウウガムタ」シ、(お話ししよったのを、)

「ウハナシ 「ウウガムタシェ」ー、(お話ししよったのは、)

「ウハナシ 「ウウガムタシ」ガ、(お話ししよったが、)

「ウハナシ 「ウウガムタク」 トゥ、(お話ししよったので、)

「ウハナシ 「ウウガムタ」 ガ。(お話ししよったか。)

「ウハナシ 「ウウガムティ」 ー。(お話ししよったか。)

「ウハナシ 「ウウガダン。(お話しした。)

「ウハナシ 「ウウガダル〜 (お話しした〜)

「ウハナシ 「ウウガダル。(お話ししたのだ。)

「ウハナシ 「ウウガダラ。(お話ししただろうか。)

「ウハナシ 「ウウガダシ、(お話ししたのを、)

「ウハナシ 「ウウガダシェ」 ー、(お話ししたのは、)

「ウハナシ 「ウウガダシ」 ガ、(お話ししたが、)

「ウハナシ 「ウウガダク」 トゥ、(お話ししたので、)

「ウハナシ 「ウウガダガ。(お話ししたか。)

「ウハナシ 「ウウガディー。(お話ししたか。)

表19 謙譲・丁寧形(拝む系) 「ハナスン。(話す。)

「ウハナシ 「ウウガマビラ」 ン。(お話ししません。)

「ウハナシ 「ウウガマビラ。(お話ししましょう。)

「ウハナシ 「ウウガマビラ」 ー、(お話ししますなら、)

「ウハナシ 「ウウガマビレ」 ー、(お話ししますれば、)

「ウハナシ 「ウウガマビーン。(お話しします。)

「ウハナシ 「ウウガマビール〜 (お話しします〜)

「ウハナシ 「ウウガマビール。(お話しするのです。)

「ウハナシ 「ウウガマビーラ。(お話しするでしょうか。)

「ウハナシ 「ウウガマビーシ、(お話ししますのを、)

「ウハナシ 「ウウガマビーシ」 ガ、(お話ししますが、)

「ウハナシ 「ウウガマビーシェ」 ー、(お話ししますのは、)

「ウハナシ 「ウウガマビーシ」 ガ、(お話ししますが、)

「ウハナシ 「ウウガマビーク」 トゥ、(お話ししますので、)

「ウハナシ 「ウウガマビータ」ン。(お話ししよりました。)

「ウハナシ 「ウウガマビータ」ル〜(お話ししよりました〜)

「ウハナシ 「ウウガマビータ」ル。(お話ししよったのです。)

「ウハナシ 「ウウガマビータ」ラ。(お話ししよったでしょうか。)

「ウハナシ 「ウウガマビータ」シ、(お話ししよりましたのを、)

「ウハナシ 「ウウガマビータシェ」ー、(お話ししよりましたのは、)

「ウハナシ 「ウウガマビータシ」ガ、(お話ししよりしましたが、)

「ウハナシ 「ウウガマビータク」トゥ、(お話ししりましたので、)

「ウハナシ 「ウウガマビータ」ガ。(お話ししよりましたか。)

「ウハナシ 「ウウガマビータィ」ー。(お話ししよりましたか。)

「ウハナシ 「ウウガマビタ」ン。(お話ししました。)

「ウハナシ 「ウウガマビタ」ル〜(お話ししました〜)

「ウハナシ 「ウウガマビタ」ル。(お話ししたのです。)

「ウハナシ 「ウウガマビタ」ラ。(お話ししたでしょうか。)

「ウハナシ 「ウウガマビタ」シ、(お話ししましたのを、)

「ウハナシ 「ウウガマビタシ」ガ、(お話ししましたのが、)

「ウハナシ 「ウウガマビタシェ」ー、(お話ししましたのは、)

「ウハナシ 「ウウガマビタシ」ガ、(お話ししましたが、)

「ウハナシ 「ウウガマビタク」トゥ、(お話ししましたので、)

「ウハナシ 「ウウガマビタ」ガ。(お話ししましたか。)

「ウハナシ 「ウウガマビティ」ー。(お話ししましたか。)

表20 謙譲・継続形(拝む系) 「ハナスン。(話す。)

「ウハナシ 「ウウガデー「ウウラ」ン。(お話ししていない。)

「ウハナシ 「ウウガドーカ」ナ。(お話ししておこう。)

「ウハナシ 「ウウガドーラ」ー、(お話ししているなら、)

「ウハナシ 「ウウガドーレ」ー、(お話ししていれば、)

「ウハナシ 「ウウガドーン。(お話ししている。)

「ウハナシ 「ウウガドール〜(お話ししている〜)

「ウハナシ 「ウウガドール。(お話ししているのだ。)

「ウハナシ 「ウウガドーラ。(お話ししているだろうか。)

「ウハナシ 「ウウガドーシ、(お話ししているのを、)
「ウハナシ 「ウウガドーシェ」 ー、(お話ししているのは、)
「ウハナシ 「ウウガドーシ」 ガ、(お話ししているが、)
「ウハナシ 「ウウガドーク」 トゥ、(お話ししているので、)

「ウハナシ 「ウウガドータ」 ン。(お話ししていた。)
「ウハナシ 「ウウガドータ」 ル〜 (お話ししていた〜)
「ウハナシ 「ウウガドータ」 ル。(お話ししていたのだ。)
「ウハナシ 「ウウガドータ」 ラ。(お話ししていただろうか。)
「ウハナシ 「ウウガドータ」 シ、(お話ししていたのを、)
「ウハナシ 「ウウガドータ」 シェー、(お話ししていたのは、)
「ウハナシ 「ウウガドータシ」 ガ、(お話ししていたが、)
「ウハナシ 「ウウガドータク」 トゥ、(お話ししていたので、)
「ウハナシ 「ウウガドータ」 ガ。(お話ししていたか。)
「ウハナシ 「ウウガドーティ」 ー。(お話ししていたか。)

表21 謙譲・継続・丁寧形(拝む系) 「ハナスン。(話す。)

「ウハナシ 「ウウガデー「ウウイ」 ビラン。(お話ししていません。)
「ウハナシ 「ウウガドーイビラ。(お話ししていきましょう。)
「ウハナシ 「ウウガドーチャ」 ビラ。(お話ししておきましょう。)
「ウハナシ 「ウウガドーイビーラ」 ー、(お話ししていますなら、)
「ウハナシ 「ウウガドーイビーレ」 ー、(お話ししていますすれば、)

「ウハナシ 「ウウガドーイビーン。(お話ししています。)
「ウハナシ 「ウウガドーイビール〜 (お話ししています〜)
「ウハナシ 「ウウガドーイビール。(お話ししているのです。)
「ウハナシ 「ウウガドーイビーラ。(お話ししているのでしょうか。)
「ウハナシ 「ウウガドーイビーシ、(お話ししていますのを、)
「ウハナシ 「ウウガドーイビーシェ」 ー、(お話ししていますのは、)
「ウハナシ 「ウウガドーイビーシ」 ガ、(お話ししていますが、)
「ウハナシ 「ウウガドーイビーク」 トゥ、(お話ししていますので、)

「ウハナシ 「ウウガドーイビータ」 ン。(お話ししていました。)

「ウハナシ 「ウウガドーイビータ」 ル～（お話ししていました～）
「ウハナシ 「ウウガドーイビータ」 ル。（お話ししていたのです。）
「ウハナシ 「ウウガドーイビータ」 ラ。（お話ししていたでしょうか。）
「ウハナシ 「ウウガドーイビータ」 シ、（お話ししていましたのを、）
「ウハナシ 「ウウガドーイビータシェ」 ー、（お話ししていましたのは、）
「ウハナシ 「ウウガドーイビータシ」 ガ、（お話ししていましたが、）
「ウハナシ 「ウウガドーイビータク」 トゥ、（お話しして이었습니다ので、）
「ウハナシ 「ウウガドーイビータ」 ガ。（お話ししていましたか。）
「ウハナシ 「ウウガドーイビーティ」 ー。（お話ししていましたか。）

表22 謙讓形（申し上げる系） 「ハナスン。（話す。）

「ウハナシ 「ウン」 ヌキラン。（お話し申し上げない。）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキラ。（お話し申し上げよう。）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキリ。（お話し申し上げなさい。）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキレー。（お話し申し上げなさいよ。）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキラー、（お話し申し上げるなら、）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキレー、（お話し申し上げれば、）

「ウハナシ 「ウン」 ヌキーン。（お話し申し上げる。）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキール～（お話し申し上げる～）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキール。（お話し申し上げるのだ。）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキーラ。（お話し申し上げるだろうか。）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキーシ、（お話し申し上げるのを、）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキーシェ」 ー、（お話し申し上げるのは、）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキーシ」 ガ、（お話し申し上げるが、）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキーク」 トゥ、（お話し申し上げるので、）

「ウハナシ 「ウン」 ヌキータ」 ン。（お話し申し上げよった。）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキータ」 ル～（お話し申し上げよった～）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキータ」 ル。（お話し申し上げよった。）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキータ」 ラ。（お話し申し上げよっただろうか。）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキータ」 シ、（お話し申し上げよったのを、）
「ウハナシ 「ウン」 ヌキータシェ」 ー、（お話し申し上げよったのは、）

「ウハナシ 「ウン」 ヌキータシ」 ガ、(お話し申し上げよったが、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキータク」 トゥ、(お話し申し上げよったので、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキータ」 ガ。(お話し申し上げよったか。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキティ」 ー。(お話し申し上げよったか。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキタ」 ン。(お話し申し上げた。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキタ」 ル〜 (お話し申し上げた〜)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキタ」 ル。(お話し申し上げたのだ。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキタ」 ラ。(お話し申し上げただろうか。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキタ」 シ、(お話し申し上げたのを、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキタシェ」 ー、(お話し申し上げたのは、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキタシ」 ガ、(お話し申し上げたが、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキタク」 トゥ、(お話し申し上げたので、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキタ」 ガ。(お話し申し上げたか。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキティ」 ー。(お話し申し上げたか。)

表23 謙譲・丁寧形(申し上げる系) 「ハナスン。(話す。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「ヤビラン。(お話し申し上げません。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビラ。(お話し申し上げます。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビリ。(お話し申し上げなさい。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビレ」 ー。(お話し申し上げなさいよ。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビラ」 ー、(お話し申し上げますなら、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビレ」 ー、(お話し申し上げますれば、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビーン。(お話し申し上げます。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビール〜 (お話し申し上げます〜)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビール。(お話し申し上げますの。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビーラ。(お話し申し上げますでしょうか。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビーシ、(お話し申し上げますのを、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビーシェ」 ー、(お話し申し上げますのは、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビーシ」 ガ、(お話し申し上げますが、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビーク」 トゥ、(お話し申し上げますので、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビータ」ン。(お話し申し上げられました。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビータ」ル～(お話し申し上げられました～)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビータ」ル。(お話し申し上げられたのです。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビータ」ラ。(お話し申し上げられたでしょうか。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビータ」シ、(お話し申し上げられましたのを、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビータシェ」ー、(お話し申し上げられましたのは、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビータシ」ガ、(お話し申し上げられましたが、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビータク」トゥ、(お話し申し上げられましたので、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビータ」ガ。(お話し申し上げられましたか。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビーティ」ー。(お話し申し上げられましたか。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビタ」ン。(お話し申し上げました。)(あまり末尾は下がらない)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビタ」ル～(お話し申し上げました～)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビタ」ル。(お話し申し上げたのです。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビタ」ラ。(お話し申し上げたでしょうか。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビタ」シ、(お話し申し上げましたのを、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビタシェ」ー、(お話し申し上げましたのは、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビタシ」ガ、(お話し申し上げましたが、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビタク」トゥ、(お話し申し上げましたので、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビタ」ガ。(お話し申し上げましたか。)(あまり末尾は下がらない)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキヤビティ」ー。(お話し申し上げましたか。)

表24 謙譲・継続形(申し上げる系) 「ハナスン。(話す。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキテー「ウウラ」ン。(お話し申し上げていない。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキトーカ」ナ。(お話し申し上げておこう。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキトーラ」ー、(お話し申し上げているなら、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキトーレ」ー、(お話し申し上げていれば、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキトーン。(お話し申し上げている。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキトール～(お話し申し上げている～)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキトール。(お話し申し上げているのだ。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキトーラ。(お話し申し上げているだろうか。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキトーチ、(お話し申し上げているのを、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキトーシェ」 ー、(お話し申し上げているのは、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキトーシ」 ガ、(お話し申し上げているが、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキトーク」 トゥ、(お話し申し上げているので、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキトータ」 ン。(お話し申し上げていた。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキトータ」 ル～ (お話し申し上げていた～)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキトータ」 ル。(お話し申し上げていたのだ。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキトータ」 ラ。(お話し申し上げていただろうか。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキトータ」 シ、(お話し申し上げていたのを、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキトータシェ」 ー、(お話し申し上げていたのは、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキトータシ」 ガ、(お話し申し上げていたが、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキトータク」 トゥ、(お話し申し上げていたので、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキトータ」 ガ。(お話し申し上げていたか。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキトータィ」 ー。(お話し申し上げていたか。)

表25 謙譲・継続・丁寧形(申し上げる系) 「ハナスン。(話す。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキテー「ウウイ」 ビラン。(お話し申し上げていません。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トーチャ」 ビラ。(お話し申し上げておきましょう。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービーラ」 ー、(お話し申し上げていますなら、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービーレ」 ー、(お話し申し上げていますれば、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービーン」。(お話し申し上げています。)*
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービール」～ (お話し申し上げています～)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービール」。(お話し申し上げているのです。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービーラ」。(お話し申し上げているでしょうか。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービーシ」、(お話し申し上げていますのを、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービーシェ」 ー、(お話し申し上げていますのは、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービーシ」 ガ、(お話し申し上げていますが、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービーク」 トゥ、(お話し申し上げていますので、)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービータ」 ン。(お話し申し上げていました。)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービータ」 ル～ (お話し申し上げていました～)
「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トイービータ」 ル。(お話し申し上げていたのです。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トーイビータ」 ラ。(お話し申し上げていたでしょうか。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トーイビータ」 シ、(お話し申し上げていましたのを、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トーイビータ」 シュー、(お話し申し上げていましたのは、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トーイビータシ」 ガ、(お話し申し上げていましたが、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トーイビータク」 トゥ、(お話し申し上げていましたので、)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トーイビータ」 ガ。(お話し申し上げていましたか。)

「ウハナシ 「ウン」 ヌキ「トーイビーティ」 ー。(お話し申し上げていましたか。)

*《「ウン」 ヌキ「トーイビーン」》のように、すべてにおいて《トー》の前のところで
音調を高く戻すことが特徴的である。

表26 謙讓形(差し上げる系) 「シラ」 スン。(知らせる。)

「シラ」 チ、(知らせて、)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギラン。(知らせてさしあげない。)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギラ。(知らせてさしあげよう。)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギリ。(知らせてさしあげよ。)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギレー。(知らせてさしあげよ。)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギラー、(知らせてさしあげるなら、)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギレー、(知らせてさしあげれば、)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギーン。(知らせてさしあげる。)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギール～(知らせてさしあげる～)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギール。(知らせてさしあげるのだ。)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギーラ。(知らせてさしあげるだろうか。)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギーシ、(知らせてさしあげるのを、)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギーシェ」 ー、(知らせてさしあげるのは、)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギーシ」 ガ、(知らせてさしあげるが、)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギーク」 トゥ、(知らせてさしあげるので、)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギータ」 ン。(知らせてさしあげよった。)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギータ」 ル～(知らせてさしあげよった～)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギータ」 ル。(知らせてさしあげよった。)

「シラ」 チ 「ウサ」 ギータ」 ラ。(知らせてさしあげよっただろうか。)

「シラ」チ 「ウサ」ギータ」シ、(知らせてさしあげよったのを、)
「シラ」チ 「ウサ」ギータシェ」ー、(知らせてさしあげよったのは、)
「シラ」チ 「ウサ」ギータシ」ガ、(知らせてさしあげよったが、)
「シラ」チ 「ウサ」ギータク」トゥ、(知らせてさしあげよったので、)
「シラ」チ 「ウサ」ギータ」ガ。(知らせてさしあげよったか。)
「シラ」チ 「ウサ」ギーティ」ー。(知らせてさしあげよったか。)

「シラ」チ 「ウサ」ギタ」ン。(知らせてさしあげた。)
「シラ」チ 「ウサ」ギタ」ル〜(知らせてさしあげた〜)
「シラ」チ 「ウサ」ギタ」ル。(知らせてさしあげたのだ。)
「シラ」チ 「ウサ」ギタ」ラ。(知らせてさしあげただろうか。)
「シラ」チ 「ウサ」ギタ」シ、(知らせてさしあげたのを、)
「シラ」チ 「ウサ」ギタシェ」ー、(知らせてさしあげたのは、)
「シラ」チ 「ウサ」ギタシ」ガ、(知らせてさしあげたが、)
「シラ」チ 「ウサ」ギタク」トゥ、(知らせてさしあげたので、)
「シラ」チ 「ウサ」ギタ」ガ。(知らせてさしあげたか。)
「シラ」チ 「ウサ」ギティ」ー。(知らせてさしあげたか。)

表27 謙譲・丁寧形(差し上げる系) 「シラ」スン。(知らせる。)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビラン。(知らせてさしあげません。)
「シラ」チ 「ウサ」ギヤビラ。(知らせてさしあげましょう。)
「シラ」チ 「ウサ」ギヤビリ。(知らせてさせあげなさい。)
「シラ」チ 「ウサ」ギヤビレ」ー。(知らせてさせあげなさい。)
「シラ」チ 「ウサ」ギヤビラー、(知らせてさしあげますなら、)
「シラ」チ 「ウサ」ギヤビレー、(知らせてさしあげますれば、)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビーン。(知らせてさしあげます。)
「シラ」チ 「ウサ」ギヤビール〜(知らせてさしあげます〜)
「シラ」チ 「ウサ」ギヤビール。(知らせてさしあげるのです。)
「シラ」チ 「ウサ」ギヤビーラ。(知らせてさしあげるでしょうか。)
「シラ」チ 「ウサ」ギヤビーシ、(知らせてさしあげますのを、)
「シラ」チ 「ウサ」ギヤビーシェ」ー、(知らせてさしあげますのは、)
「シラ」チ 「ウサ」ギヤビーシ」ガ、(知らせてさしあげますが、)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビーク」トゥ、(知らせてさしあげますので、)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビータ」ン。(知らせてさしあげよりました。)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビータ」ル〜(知らせてさしあげよりました〜)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビータ」ル。(知らせてさしあげよったのです。)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビータ」ラ。(知らせてさしあげよったでしょうか。)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビータ」シ、(知らせてさしあげよりましたのを、)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビータシェ」ー、(知らせてさしあげよりましたのは、)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビータシ」ガ、(知らせてさしあげよりましたが、)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビータク」トゥ、(知らせてさしあげよりましたので、)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビータ」ガ。(知らせてさしあげよりましたか。)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビーティ」ー。(知らせてさしあげよりましたか。)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビタ」ン。(知らせてさしあげました。)(あまり末尾は下がらない)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビタ」ル〜(知らせてさしあげました〜)(同上)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビタ」ル。(知らせてさしあげたのです。)(同上)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビタ」ラ。(知らせてさしあげたでしょうか。)(同上)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビタ」シ、(知らせてさしあげましたのを、)(同上)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビタシェ」ー、(知らせてさしあげましたのは、)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビタシ」ガ、(知らせてさしあげましたが、)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビタク」トゥ、(知らせてさしあげましたので、)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビタ」ガ。(知らせてさしあげましたか。)

「シラ」チ 「ウサ」ギヤビティ」ー。(知らせてさしあげましたか。)